

昨年の台風第11号襲来時の治水効果



東京ドーム6個分もの雨水をダムに貯め込んで、とても役に立ったんだよ。

平成26年8月の台風第11号では、安濃川の水位がはん濫危険水位を超え、9日15時45分に避難指示が発令されました。

この時、安濃ダムでは746万 m^3 (およそ東京ドーム6個分)もの雨水をダムに貯めこみ、安濃川(一色観測所地点)の水位が最高に達した時点でも下流への放流量を約1 m^3 /秒に抑えました。安濃川の水位が下がり始めた頃に、水位の上昇に大きな影響を与えない範囲で放流を行ったことから、安濃ダムが治水面上において一定の効果を発揮していたことが伺えます。

一方で、安濃ダムの水位調整力にも限界があり、ダムが満水に近い状態で多量の降雨があると、早い段階で放流することもあります。放流前には警報局のサイレンや警報車でお知らせしていますので注意してください。



治水面で効果を発揮したんだね。

洪水への取り組み



国や県、市では、いろいろと安濃川のはん濫を抑えるよう考えているんだ。

津市をはじめ国や県、中勢用土地利用改良区(農業者の利水団体)が協力して、安濃川のはん濫を抑える取り組みを進めています。

国は、平成24年度からダム湖に貯まった土砂を搬出したり、ダムの老朽化した設備の補修を行う事業などに取り組んでいます。

また、津市と三重県、中勢用土地利用改良区が協力して、大雨が予測されたときは、川の水位が低いうちにダムの貯留水を放流して洪水の軽減に取り組んでいます(事前放流の試行)。更に三重県は、安濃ダム管理事務所に降雨予測システムを導入し、大雨時に的確な対応ができるようにしています。

津市では、河川の水位情報や安濃ダムの放流状況を三重県と共有し、的確な避難勧告等の発令に努め、安濃川のはん濫から市民の生命を守っていきます。



私も、大雨の時には、天気予報や市の情報に気をつけることにしよう。

安濃ダムでの新たな取り組み 小水力発電事業



安濃ダムでは、再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度を活用し、ダムの放流水を利用した小水力発電所の建設が行われています。

工期
平成26～
28年度

最大出力
338kw

二酸化炭素
削減量
約521t/年

この事業は県が実施していますが、市も事業費の25%を負担し、環境への負荷の少ない社会の形成に取り組んでいます。

安濃ダム施設の見学を希望する人は、下記へお申し込みください。

(平日9時～16時。ただし、祝・休日、年末年始を除く)

問い合わせ 三重県津農林水産事務所安濃ダム管理室 ☎265-4133